




## 学位論文審査の結果の要旨

平成 30 年 5 月 9 日

審査委員	主 査	平尾 智久 		
	副主査	田宮 隆 		
	副主査	三木 宗親 		
願 出 者	専攻	分子情報制御医学専攻	部門	分子神経機能学
	学籍 番号	14D746	氏名	森 崇洋
論 文 題 目	ABC Dementia Scale: A Quick Assessment Tool for Determining Alzheimer's Disease Severity			
学位論文の審査結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格      (該当するものを○で囲むこと。)			
<p>[ 要 旨 ]</p> <p>日常生活動作 (ADL)、行動・心理症状 (BPSD)、認知機能の3領域を評価できるABC認知症スケール (ABC-DS) を開発した。本研究ではABC-DSの妥当性、信頼性、反応性を検討した。</p> <p>ABC-DSは13個項目で、9点～1点の9段階評定である。アルツハイマー病 (AD) 患者と軽度認知障害 (MCI) 患者の計312名に、ABC-DSと既存のスケール (MMSE、NPI-D、DAD、CDR) を施行した。1週後に来院した218名にABC-DSを再度施行し評価者内信頼性を検討した。12週後に来院した227名にABC-DSと既存のスケールを施行し、12週間の反応性を検討した。</p> <p>ABC-DSの所要時間は9.96±4.79分であった。因子分析により、13個の質問項目はADL、BPSD、認知機能の3つの領域に分類されることが確認された。各項目の項目反応カテゴリ特性曲線から、各質問項目の質が適切であることが確認された。以上から構成概念妥当性を確認した。ADL関連スコア、BPSD関連スコア、認知機能関連スコアは、それぞれ対応するDAD、NPI-D、MMSEのスコアと高い相関を示した。またABC-DS総得点とMMSE、DAD、CDRも高い相関を示した。ROC曲線を用いた分析で、Global CDRのスコアに対するABC-DS総得点のカットオフ値を求めた。以上から併存妥当性が確認された。評価者内信頼性の検討では、重み付κ係数はQ8、Q9以外は0.6以上であり、Q8、Q9も0.5以上であり、良好な結果であった。12週間の反応性の検討から、ABC-DSはMMSE、NPI-D、CDR-SBと同等以上の反応性を有していることが示された。</p> <p>本研究によってABC-DSの妥当性、信頼性、反応性を検証することができた。また簡便にADの重症度を評価できることが示された。</p>				

本研究に関する学位論文審査は平成30年5月2日に行われた。

#### 質疑応答の内容

##### 研究方法について

- ◇対象をADに限った理由？→ADと他の認知症では症状が異なるため。
- ◇統合失調症や老人性うつは除外したか？→重大な精神疾患がある人は除外した。
- ◇ABC-DSと他のスケールを行う順番で結果が異ならないか？→違いはないと考えている。
- ◇評価者の職種による相違はないか？→評価者間信頼性は良好である。
- ◇Drop outの理由とそれを減らすための工夫？→Drop outの理由は手順の逸脱であった。通院期日を揃えるなどの工夫をした。

##### 研究結果について

- ◇ABC-DSの9段階のうち、奇数項目のみに説明が書かれているが、回答が奇数に偏ることはなかったか？→偏ることはなかった。
- ◇分析の過程で9段階を5段階に集約しているが、集約の仕方によって結果が変わるということはないか？→大きな変化はないと考えている。
- ◇12週間の変化の臨床的解釈？→領域ごとの変化を鋭敏に捉えられる点がABC-DSの優れている点であると考えている。
- ◇介護者や評価者が途中で変更した場合の影響は？→介護者の変更については今後の検討課題である。評価者の変更については、イラスト等があり影響は少ないと考えている。
- ◇患者の内服の影響は？→12週間は短期間のため、大きな影響は受けていないと考えている。

##### 応用について

- ◇認知症初期への適応可能性は？→本研究では健常者を評価していないので健常者とMCIの鑑別については不明である。
- ◇専門家以外が用いる場合どの程度の訓練が必要か？→評価者の4割が医療事務職であり、通常の人でも専門家と近い結果が出ると予測している。

##### その他

- ◇ABC-DSの海外での評価は？→海外からの問い合わせが1件あった。

以上の質問に対し、いずれも適切な回答が得られた。よって、審査委員は一致して本論文が博士（医学）論文として相応しいものであると判断した。

掲載誌名	Dementia and Geriatric Cognitive Disorders Extra 2018;8:85-97		
(公表予定) 掲載年月	2018年 3月	出版社(等)名	KARGER

(備考) 要旨は、1, 500字以内にまとめてください。